

(生活科・総合的な学習の時間)

「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、

問題解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む児童を育てる」

～ シンキングツールを活用した思考力の育成 ～

大阪市立泉尾北小学校 鈴木 良和 河野 彩花 石崎 亜季

1 研究主題設定の理由

本校では、子どもたちに学校や地域のことをもっとよく知ってほしいという思いから、創立100周年を迎えた平成26年度より、生活科・総合的な学習の時間の研究に取り組んできた。平成26年度の研究の成果として、体験活動やインタビュー活動などにより、「ひと・もの・こと」と関わる中で、改めて泉尾北地域のよさを子どもが気付いたり学んだりすることができた。しかし、調べたことや自分の考えをまとめる力、友だちの意見や考えにつなげて話し合いを深めたり練り合ったりする力がまだ十分ではなく、子どもにそのような力をつける指導の工夫が必要であると考えた。

そこで、平成27年度より、目指す子どもの姿を「主体的に学ぶ子ども」「考えを整理・分類し、表現できる子ども」として、研究主題を『自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、問題解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む児童を育てる』と設定し研究を進め、今年度は以下の内容で取り組んできた。

2 研究の内容

(1) 主体的に学ぶ子ども

①課題の設定に重点を置く

総合的な学習の時間のテーマを設定する際、イメージ軸（思っていることと異なる）・時間軸（昔と今を比べる）・空間軸（他のものと比べる）という3つの視点を手がかりにするようにした。そして、子どもが「気になるな」「何とかしたいな」「解決したいな」と感じる課題と出会うことで、子どもが主体的に学ぶことにつながると考えた。

②泉尾北地域の「ひと・もの・こと」と関わる

泉尾北小学校区には、三泉商店街や泉尾中通商店街をはじめ、大正区ものづくりマップに掲載されている工場など、さまざまな施設がある。地域にあるそれらの場所で保護者が働いていたり、子どもがお世話になっていたり、学校と地域が自然とつながっている実態がある。そこで、子どもにより地域を“好き、大切、自慢”できるものになって欲しいと考え、本校では校区の「ひと・もの・こと」に重点的に関わる活動に取り組むことにした。また、①②を踏まえた活動について効果的に取り組んでいくことができるように、年間指導計画を見直し、他教科・領域との関連について整理した。

③ルーブリックを活用する

ルーブリックとは、毎時間の学習のめあてに対する子どもの到達目標のことである。本校では、授業の導入時にめあてをつかませた後、何ができたらいいか、どこまでできたらいいかということ子どもと指導者が話し合って到達目標を決めている。到達目標が明確になることで、子どもが本時のねらいを意識して学習することができることに加え、根拠をもった振り返りができるのではないかと考えた。

本校では、ルーブリックを2段階で設定している。子どもにめあてをつかませた後に、まず第1段階の目標として「A（低学年は○）」を決める。それから、第2段階の「S（低学年は◎）」を設定するようにした。子どもと一緒に確認をしながらルーブリックを設定す

るが，子どもの発達段階や指導者のねらいによって，柔軟に活用している。

ループリックは，到達目標を具体的に表すものであるため，それを設定するためには本時のねらいも具体的なものでなければならないと考える。そのために，本校では，以下の表にある思考スキルを参考にしながら，本時のめあてを示すようにしている。

多面的に見る	分類する	焦点化する	比較する	順序立てる
変化をとらえる	関係づける	関連づける	変換する	理由づける
見通す	抽象化する	具体化する	応用する	推論する
広げてみる	構造化する	要約する	評価する	

（２）考えを整理・分類し，表現できる子ども

①シンキングツールを活用する

本校では，子どもが思考を整理・分類したり，可視化したりするための一つの手立てとしてシンキングツールを活用している。思考を整理・分類，可視化することで，新たな視点に気付いたり，友だちとの話し合いが広がったり深まったりすることが考えられる。本研究では，主に以下の表にあるシンキングツールを活用した。また，学年別のめざす子ども像として，低学年は，指導者と一緒にシンキングツールを使い，情報を整理・分類することができること，中学年は，指導者の支援をもらいながらシンキングツールを使い，情報を整理・分類することができること，高学年は，目的に応じて自分達でシンキングツールを選び，情報を整理・分類することができること，としている。

思考スキル	シンキングツール	詳細
比較する	ベン図	複数の事柄の「相違点」や「共通点」を見つけ出すために使用する。
分類する	X・Yチャート	物事をいくつかのまとまりにわけて整理するために使用する。
構造化する	ピラミッドチャート	複数の事柄を根拠に，論理的に主張を構成するために使用する。
多面的に見る	ボーン図	物事を複数の視点から見て情報をまとめることに使用する。
評価する	PMI シート	観点を持ち，根拠に基づいて対象への意見を述べることに使用する。

3 研究の成果と今後の課題

（１）成果

- ・生活科・総合的な学習の時間と他教科・領域とを関連させた独自の年間指導計画を作成することで，活動の見通しが明確になり，効果的に学習を進めていくことができた。
- ・取り組みを進めていくことで，「主体的に学ぶ子ども」「考えを整理・分類し，表現できる子ども」という目指す子どもの姿が表れてきた。

（２）課題

- ・新学習指導要領を見据えて，年間指導計画を継続的に見直していく必要がある。
- ・「思考スキル」と「シンキングツール」のつながりを意識した指導を重ね，より一層思考を整理・分類できる力をつけていくこと。
- ・ループリックをどのような手順や観点で設定すれば，より主体的に子どもの学ぶ意欲を高められるのかについて今後も研究を進めていくこと。